

はや今年もあと一週間ほどになりました。昨年のこの日は、愛知県岡崎市での「世界の国旗」講座に、一泊二日で参加したのでした。楽知ん研究所主催の講座は内容がとても濃くてワクワクですね。今年の年末12月25日～26日(月～火)に行われる「磁石」講座には、まだ火曜日まで二学期授業なので参加できず残念です。

先月紹介した「ごめんねいいよ指導について」、その後6年のあおば学級の子(A君)と通常学級の子(B君)とでトラブルがありまして、同じような状況に直面しました。ある日の放課後、二人がケンカして、A君がB君の顔を殴ったのです。そしてB君はA君に草取り鎌を投げたのです。原級担任が中堅教諭で、生徒指導担当でもあり、原級での二人の関係性をわきまえていました。両者の言い分を聞き、事態の整合性を図り、各保護者を呼んで(校長も同席)、経緯を説明し、学校としてこのような事態を作ったことを保護者に詫言いました。当事人同士には、「面と向かわせて互いに謝らせる」ような指導はせずに、その後クラスで経過を見守ることにしました。この指導、さすがでした。私も原級に入って様子を見ていますが、今のところトラブル再発はない状況です。生徒指導場面は日々ありますが、よく子どもを見ていかなければ、ですね。

また、12月には読書旬間がありました。昨年度は、本の紹介ポスターを作って掲示するだけだったので、仮説社から出版されている絵本『あさ』『こくご』(扇野剛さん著)を紹介しました。今年度は、4年2組に読み聞かせをするというので、(4年生はこの前上田創造館のプラネタリウムに見学に行ってきたので、)いたずら博士の科学絵本(国土社版の旧版)より『北斗七星と北極星』を読み聞かせしました。4年2組の子どもたち、興味深く見たり聞いたりしてました。この絵本シリーズ、もう滋野小の学校図書館にはなくて、公共図書館にはまだあると思いますが、廃棄されてしまうのはもったいないです。新版として仮説社から出ているシリーズもありますが、こうした科学読み物を、機会があれば読み聞かせしていきたいと思います。

さて、今回もまたまた、紹介ばかりのレポートで、すみません。

上田仮説サークルの掲示板に、渡邊規夫先生が、2023/11/15(Wed)に「フェイスブックに関さんの講演について載っていました」と書かれていました。フェイスブックで検索した関さんの文を引用します。

11月15日 先日(11月12日)の上田先人シンポジウムでの私の基調講演の様子です。先人を発掘していくことで日本の地域どうし、世界との交流にもつながって、街の活性化、歴史的景観を大切に作る街づくり、国際交流の推進にもつながるということを強調してきました。

上田の先人で全く知られておらず、あまりにももったいない人物の一人が松平忠厚です。忠厚は老中・上田藩主の松平忠固の四男で、信州川中島・塩崎5000石を継いだ旗本でした。その旗本が、廃藩置県後私費でアメリカに留学して、アメリカ人女性と国際結婚した日本人の第一号、アメリカ初の日本人公職者となり、そしてアメリカの発明家として大活躍します。

添付した記事は、『The Detroit Post and Tribune』紙の1880年2月21日の記事なのですが、忠厚の発明の才能はエジソンに匹敵すると、驚くようなことが書かれています。忠厚が数々の発明で特許をとらず、日本の実家からは勘当され、貧困の中で若くして亡くなってしまったこともあり、日米両国で、忠厚の業績は忘れられています。業績を掘り起こしていくことで、日米交流の歴史にも新たな光が当たるでしょう。ドラマや映画にしたら、これほど劇的で感動的な人物もいないように思えます。

関さんは、赤松小三郎や松平忠固など、上田出身の幕末の人物を研究してきています。著書も数冊あります。渡邊先生の教え子でかつて上田仮説サークルにも来たことのある関さんが、こうして活躍していることは嬉しいことです。関さんの「上田市先人シンポジウム」での講演が、上田ケーブルビジョンで放映されたのですが見逃してしまいました。

なお、赤松小三郎に関わって、上田市マルチメディア情報センターのHPから、ホームページ作品集HPにリンクして、その中に「赤松小三郎 ～議会政治の提唱者」というHP(上田市デジタルアーカイブポータルサイトの中の一つ)があります。そこからリンクして「上田の風 ～ふたりの先生」というYOUTUBE動画も見られます。

また、「うえだ原町一番街商店会」HPから「過去の事業」の中に、赤松小三郎についての漫画による紹介YOUTUBEがあります。

もう一つ、もう終わってしまいましたが明日まで諏訪市博物館で「没後50年 考古学者 藤森栄一と諏訪の考古学」企画展が開かれている模様です。藤森栄一という考古学者は、板倉先生の『かわりだねの科学者たち』にも、紹介されていたと思いますが、三澤勝衛や保科五無斎百助の評伝も書いています。【今日は以上】